

# マキノ病院ニュース

第141号

— 令和8年4月1日発行 —

## 「人生会議（ACP）」をご存じですか

院長 西村 彰一

日ごとに春の兆しを感じられる季節となりました。住民の皆様には、健やかに過ごしていただくようお願いいたします。

少子高齢化と人口減少が進むこの地域では、医療や介護の在り方も大きく変わりつつあります。同居や高齢世帯の増加、支えるご家族の減少。こうした現実の中で、私たち医療者が強く感じているのは、「もしもの時に備えた話し合い」の大切さです。

近年、国も推進している「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉が広まりつつあります。これは、将来、病気が加齢によって自分の意思を伝えられなくなつたときに備え、どのような医療やケアを望むのかを、前もって家族や医療・介護関係者と

話し合っておく取り組みです。「まだ元気なのに、縁起でもない」と思われるかもしれませんが、急な病気や事故で自分の思いを言葉にできなくなる可能性は、誰にでもあります。実際、終末期に自ら意思決定を行うことが困難になる方は、約7割にもものぼると言われています。

実は私自身、10年前に父親が突然倒れるという経験をしました。積極的な治療を行えば延命できた可能性はありましたが、その場合、意思疎通ができなまま寝たきりになることが明らかになった状況でした。私は「延命を行わない」という苦渋の決断を下しましたが、「父の望みは本当にこれだったのか」と自問自答し、悩んだ覚えがあります。もし父と「人生会議」

を行つていれば、悩みを抱くこともなかったのかもしれない。まずは、家族や信頼できる人と「どのような医療やケアを望むのか」を話し合うことから始めてみませんか。さらに治療や介護が必要な段階になれば、私たち医療・介護スタッフも加わり、その思いを共に分かち合いたいと考えています。病院では、皆様が納得のいく意思決定ができるよう、専門家として支援させていただきます。

話し合う内容は、「回復の見込みがない場合に延命治療を望むか」といった治療面だけではありません。「最期まで住み慣れた地域で過ごしたい」「大好きな音楽を聴いていたい」など、あなたにとつての「大切にしたい価値観」を共有することこそが重要なのです。

人生会議の結果は、一度決めたら変更できないものではありません。年齢や健康状態によつて、気持ちは変わつて当然です。大切なのは、状況の変化に応じて何度でも見直すことです。

人生会議は、自分自身の尊厳を守ると同時に、残された家族が迷いや後悔を抱えないための「贈り物」になります。「まだ元気だから」と先延ばしにするのではなく、心穏やかに向き合える「今」だからこそ、大切な人と語り合つてみてください。

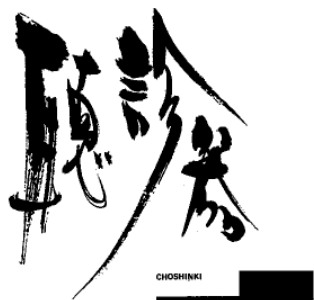
マキノ病院は、皆様がこの愛着ある地域で、自分らしく、最期まで安心して暮らしていただけるよう、全力で支えていく所存です。これからも住民の皆さんの満足が得られるよう職員一同努力してまいります。今後ともマキノ病院への御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

また便秘の存在のオッズ比は、それぞれ0.80（95%信頼区間「CI」：0.33・1.75）および0.62（95%CI：0.29・1.23）で、有意な関連は認めませんでした。2型糖尿病患者においては抗糖尿病薬の使用や肥満の影響により下痢が生じやすく、それがサルコペニアと便秘との潜在的な関連を覆い隠した可能性があります。逆に、サルコペニアと下痢との関連が認められなかった理由としては、サルコペニアが便秘を促進する傾向を有し、その結果、下痢の発症頻度を低下させている可能性が考えられました。便秘や下痢症状を有する2型糖尿病患者さんでは血糖コントロールや肥満、使用薬剤など様々な事を考えて治療を行う必要があります。お困りの際はご相談ください。

診療科のご案内  
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科  
肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科  
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —  
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00  
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099  
ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

## ドクターコーナー



マキノ病院に常勤として着任してから1年が経過しました。患者様、病院スタッフの方々の支えがあり本日まで過ごす事が出来ました。以前も紙面でご挨拶させて頂いたのですが、着任前は京都府立医科大学大学院に所属し糖尿病や甲状腺などの内分泌疾患をメインに診療しておりました。当院で

は一般内科として幅広く診療する必要がある、日々悩みながら診療しております。しかし患者さん毎に様々な病態、背景があり、それを考えながら治療を進める事は非常にやりがいがあると同時に、責任感も感じています。また初期研修含め常勤で

があるなど、急性期病院にいたるときには分からなかったことがたくさんありました。今年度も頑張りますので引き続きどうぞよろしくお願い致します。

また大学院時代から取り組んできた、2型糖尿病患者の腹部症状

## マキノ病院に着任して1年が経過して

内科 小林 玄樹

は3000~5000床規模の急性期病院での勤務であり、患者さんによっては当院にもある療養病床のある病院に送る側でした。療養病床には自宅に退院できない状態の患者さんが長期入院されており、想定していない問題も起こり適宜対応する必要

とサルコペニアに関する論文が日本糖尿病学会の英文誌である *Diabetes International* から2026年3月に発刊されたのでご紹介させていただきます。

2型糖尿病は下痢や便秘などの腹部症状をしばしば伴います。ま

果は42名がサルコペニアを有しており、サルコペニアに対する下痢